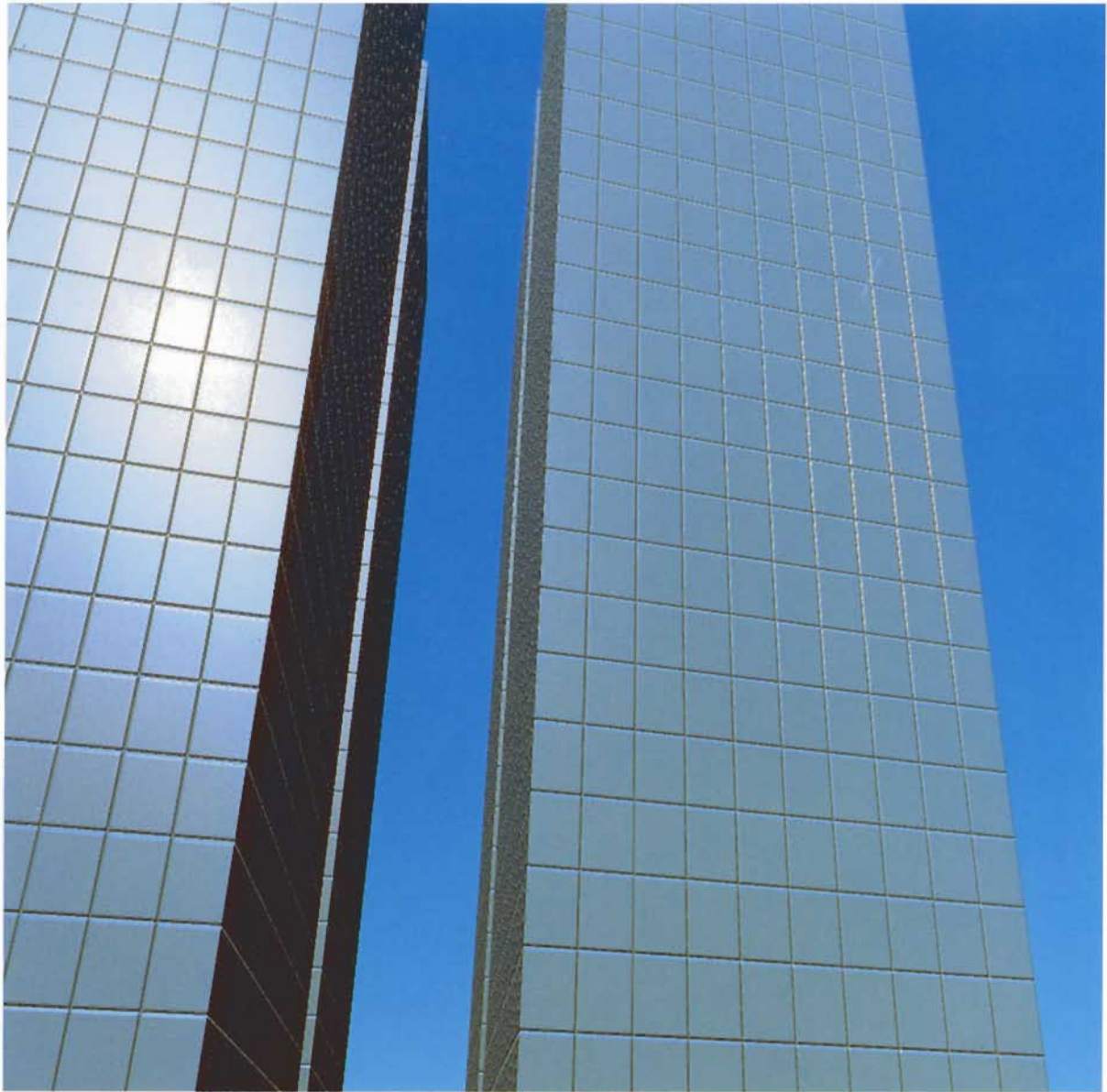


止水・補修用セメント

# デニカキューテックス





## 目 次

1. デンカキューテックスとは
2. デンカキューテックスの種類
3. デンカキューテックスの特徴
4. デンカキューテックスの用途
5. デンカキューテックスの特性(性状)
6. デンカキューテックスの施工方法
7. デンカキューテックスの使用上の注意

# 1 デンカキューテックスとは

デンカキューテックスは、特殊な急硬セメントと無機物を基材として製造した止水・製品補修・アンカーボルト定着用の急硬セメント系材料であります。

デンカキューテックスの主成分である特殊急硬セメントの水和反応硬化作用により、有効かつ簡単に止水・補修・アンカーボルト定着用としてその効果を発揮します。

デンカキューテックスは適量の水を加え練り混ぜるだけで使用できるように製造されたセメント系材料で、硬化時間までは適度の作業性を保ち、硬化開始と同時に急速に強度が増大します。

# 2 デンカキューテックスの種類

	硬化時間 (分)※2	主な用途	配 合	
			製品	水
TYPE-0	数十秒	止水	1.0	0 -
TYPE-100	0.5~1.5	止水	1.0	0.3 -
TYPE-1	0.5~1.5	止水	1.0	0.3 -
TYPE-3	1.5~5.0	止水	1.0	0.3 -
TYPE-10	5.0~15.0	製品補修	1.0	0.3~0.4
TYPE-20	15~30	製品補修	1.0	0.3~0.4
TYPE-U1	40~60	製品補修	1.0	0.18~0.25
※1TYPE-B	10~20	製品補修	1.0	0.3 -
TYPE-K	1.0~3.0	仮止め材	1.0	0.3~0.4
TYPE-A	20~50	アンカーボルト定着	1.0	0.15~0.25

※1. TYPE-Bには、各温度別のタイプをそろえています。

※2. 硬化時間は、20℃の標準硬化時間。

### 3 デンカキューテックスの特徴

- a. 適量の水を加え、練り混ぜるだけで簡単に使用できます。
- b. 急硬性があり強度は硬化と同時に急速に増大します。
- c. 用途に応じた種類を用意しています。
- d. 接着力が強く耐水性・耐水圧が優れています。
- e. 硬化時に収縮せずキレツを生じません。
- f. セメントタイプなので施工後、コンクリート構造体と一体化が図れます。

### 4 デンカキューテックスの用途

地下コンクリート工事・地下鉄工事・上下水道工事・ダム工事・一般建築工事・  
コンクリート製品補修・アンカーボルト定着など

- a. コンクリート構造物のキレツ、打継ぎ、ジョイントの補修および漏水箇所の止水に。(ボックスカルバート、U字溝、縁石ブロック、パネル)
- b. コンクリート製品(ヒューム管・コンクリート、枕木など)破損部の補修に。
- c. タイルおよび石張りの仮固定及び目地詰め。
- d. アンカーボルト定着に。
- e. 緊急補修工事に。
- f. ブロックの目地充填に。



# 5 デンカキューテックスの特性(性状)

## ■TYPE-1.3.10.20の場合

### a. 硬化特性

図-1 W/キューテックス比と硬化時間の関係

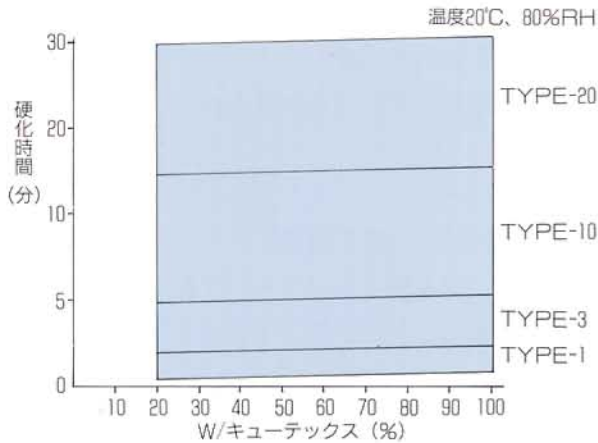
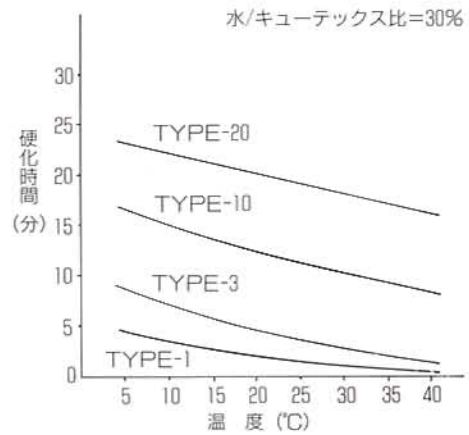


図-2 温度と硬化時間の関係



### b. 強度特性

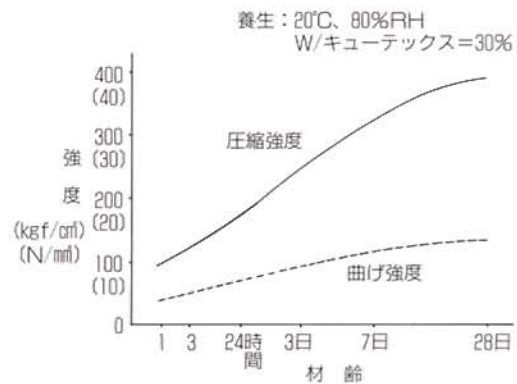
(1時間および3時間強度はTYPE-1とTYPE-3のみ)

養生: 20°C、80%RH

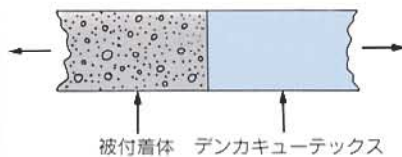
材 齢		1時間		3時間		1 日		28 日	
強 度 (kgf/cm <sup>2</sup> ) (N/mm <sup>2</sup> )		圧縮	曲げ	圧縮	曲げ	圧縮	曲げ	圧縮	曲げ
W / キューテックス (%)	30	97 (9.5)	40 (3.9)	117 (11.5)	45 (4.4)	151 (14.8)	64 (6.3)	389 (38.1)	134 (13.1)
	50	32 (3.1)	18 (1.8)	61 (6.0)	22 (2.2)	73 (7.2)	30 (2.9)	146 (14.3)	45 (4.4)
	70	17 (1.7)	11 (1.1)	24 (2.4)	13 (1.3)	36 (3.5)	18 (1.8)	73 (7.2)	31 (3.0)

( ) 内小数点第二位を四捨五入

図-3 強度と材令の関係



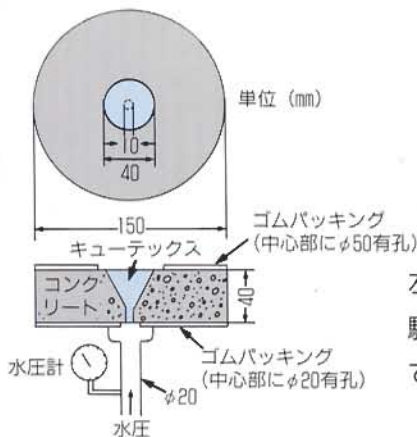
### c. 付着性



被附着体	セメント	デンカキューテックス	早強ポルトランド
コンクリート		32.0(3.1)	3.0(0.3)
軽量コンクリート		12.1(1.2)	0.5(0.05)
ケイカル板		22.0(2.2)	2.0(0.2)

( ) 内小数点第二位を四捨五入  
養生: 20°C、85%恒温恒湿室  
水/キューテックス比=30%  
付着強度: 単位kgf/cm<sup>2</sup> (N/mm<sup>2</sup>)

### d. 耐水圧性

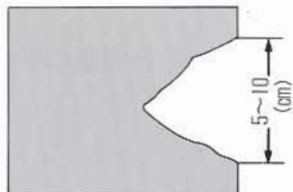


左図のような試験体を作成し JIS A1404 の建築用セメント防水剤の試験方法に準じて透水試験を行なった結果、最大水圧10kgf/cm<sup>2</sup> (1.0N/mm<sup>2</sup>) で24時間経過後の透水量は0です。

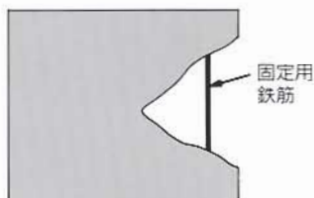
# 6 デンカキューテックスの施工方法

## ■止水の場合

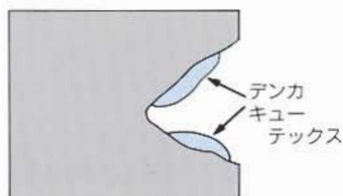
TYPE-0
TYPE-100
TYPE-1
TYPE-3



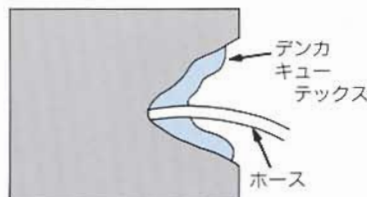
1. コンクリートの漏水箇所を所定の寸法にてV形に研る。(研る前に寸法以上に研らないように両端にカッターで刻みを入れた方が好ましい)



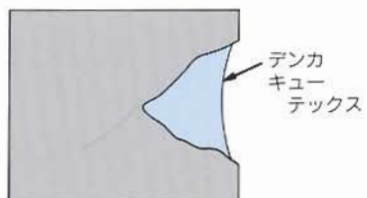
2. V形研部は施工直前にきれいな水で清掃しておく。漏水部コンクリートが動く場合は、φ13mm鉄筋などを用いてV形研部を固定する。



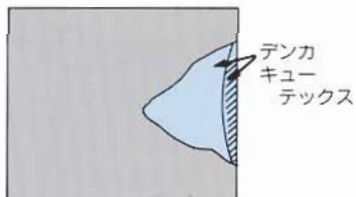
3. V形研部の漏水源のまわりを残し(全面から漏水している場合は漏水部を1ヶ所に集中させるようにして)周囲から徐々に充填する。



4. 周囲のデンカキューテックスが硬化した後、ビニールホース(φ10~25mm)を漏水源に挿入し水を逃がしながらホース周囲を固める。



5. ホース周囲が充分硬化したらホースを抜きその穴にデンカキューテックスが固まる直前に強く詰め込み、硬化するまで手で押える。



6. 止水が完了したら、躯体と同じになるようにキューテックスモルタルおよび塗料を塗布して仕上げる。

## ■コンクリート製品等の補修の場合

TYPE-10
TYPE-20
TYPE-U1
TYPE-B
TYPE-K

1. 破損部分をきれいに掃除し水で良く湿らせておく。
2. デンカキューテックスを、プラスチック容器で適量の水と共に練り混ぜる。(厚みのある場合には、TYPE-10、20に限り乾燥砂をキューテックス：砂=1：0.5~1の割合で混合)
3. 練り混ぜたデンカキューテックスで破損部分を仕上げる。仕上げはコテ、ハケで行い、精度が要求される場合にはデンカキューテックスが硬化後サンダー等を用いて研磨し、仕上げる。
4. 硬化後、直射日光によりモルタル部分が乾燥しやすい状態のときは、時々散水したりして乾燥させないように養生する。

## 7 デンカキューテックスの使用上の注意

- a. 練混ぜに使用する水は、飲料水またはこれに準ずるような清澄水を使用して下さい。
- b. 取扱いは、保護メガネ、ゴム手袋を着用し、出来るだけ皮膚に付着しないような対策を講じて下さい。
- c. デンカキューテックスには、他のセメント類、フライアッシュ、不純物を混入しないで下さい。
- d. TYPE-10・TYPE-20以外の製品には砂を混和しないで下さい。  
万一砂を混和する場合、砂の種類、量によって硬化時間等の性状が変動しますので事前に試し練りをした後使用下さい。  
但し、使用する砂は出来るだけ乾燥したものを使って下さい。  
水和反応が早いので湿った砂の場合は空練り状態で一部硬化が始まり硬化時間が変動します。
- e. デンカキューテックスに一旦水を混入したら全部使用して下さい。特に硬化時間の短いタイプのもは少量ずつ混ぜて使用するのが安全です。
- f. セメント系ですから風化、吸湿性が強いので保存には十分注意し、なるべく早くご使用下さい。
- g. 湿潤する箇所では硬化後、黄色くなるがありますが、止水・強度等には影響ありません。このような場合にはセメントペーストをハケビキすることによって解決します。



警告



●水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。  
●目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。●皮膚に付けないこと。  
●鼻や口に入れないこと。●保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。●子供に触れさせないこと。